

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	振動工学
科目基礎情報					
科目番号	0135		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	機械システム工学科		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	機械振動学 保坂寛 (東京大学出版会)				
担当教員	田尻 智紀				
到達目標					
1. 調和外力による1自由度系の強制振動を運動方程式で表し、系の運動を説明できる。 2. 調和変位による1自由度系の強制振動を運動方程式で表し、系の運動を説明できる。 3. 2自由度系の自由振動を運動方程式で表し、固有振動数を計算できる。 4. ラグランジュの式を使って運動方程式を誘導できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	調和外力による1自由度系の強制振動を正しく理解し、振幅応答曲線を描くことができる。		調和外力による1自由度系の強制振動の基本を理解し、振幅の計算ができる。		調和変位による1自由度系の強制振動を理解できず、基本問題ができない。
評価項目2	調和変位による1自由度系の強制振動を正しく理解し、振幅応答曲線を描くことができる。		調和変位による1自由度系の強制振動の基本を理解し、振幅の計算ができる。		調和外力による1自由度系の強制振動を理解できず、基本問題ができない。
評価項目3	2自由度系の自由振動を正しく理解し、応用問題を解くことができる。		2自由度系の自由振動の基本を理解し、固有振動数および固有モードを求めることができる。		2自由度系の振動を理解できず、基本問題ができない。
評価項目4	ラグランジュの式を使って応用問題の運動方程式を誘導できる。		ラグランジュの式を使って、基礎的な問題の運動方程式を誘導できる。		ラグランジュの式を理解できず、運動方程式を誘導できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-6 JABEE 1(2)(d)(1) JABEE 1(2)(e) ディプロマポリシー 1					
教育方法等					
概要	機械や構造物の高速化や軽量化に伴い、振動や動的制御が大きな問題となり、技術者にはダイナミクス（動力学）に対する能力が必要不可欠である。振動工学は機械力学を基礎として、振動や動的問題の解決に対する知識を得る学問である。前半は機械力学の範囲の演習、後半は2自由度の振動の講義を行う。				
授業の進め方・方法	教員単独による講義 教科書に沿って講義を進め、適宜演習を行う。 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておくこと。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。課題については、レポートとして評価する。				
注意点	本科目は、機械力学を基本とする学問です。この科目を十分に理解しておくこと。 授業計画は学生の理解度に応じて変更する場合がある。 学修単位のため、60時間相当の授業外学習が必要である。 本科目では60点以上の評価で単位を認定する。評価が60点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を60点とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	授業の概要説明	授業概要の説明、微分方程式	
		2週	1自由度系の不減衰自由振動	1自由度系の不減衰自由振動の基礎問題を計算できる。	
		3週	1自由度系の減衰自由振動(1)	1自由度系の減衰自由振動の基礎問題を計算できる。	
		4週	1自由度系の減衰自由振動(2)	1自由度系の減衰自由振動の基礎問題を計算できる。	
		5週	1自由度系の強制振動(1)	1自由度系の不減衰強制振動の基礎問題を計算できる。	
		6週	1自由度系の強制振動(2)	1自由度系の粘性減衰強制振動の基礎問題を計算できる。	
		7週	1自由度系の強制振動(3)	1自由度系の変位による強制振動の基礎問題を計算できる。	
	8週	中間試験			
	2ndQ	9週	2自由度系の振動(1)	2自由度系のばね質量系自由振動の基礎問題を計算できる。	
		10週	2自由度系の振動(2)	2自由度系のねじり自由振動の基礎問題を計算できる。	
		11週	2自由度系の振動(3)	2自由度系の車体系自由振動の基礎問題を計算できる。	
		12週	2自由度系の振動(4)	2自由度系の強制振動の基礎問題を計算できる。	
		13週	2自由度系の振動(5)	ラグランジュの式から運動方程式を導出できる。	
		14週	演習		
		15週	期末試験		
16週		テスト解説			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	20	10	0	0	0	0	30
専門的能力	50	20	0	0	0	0	70
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0